

市町村名		座間味村							
平成29年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート									
事業名	セーリング競技強化拠点整備事業				事業類型		<input checked="" type="checkbox"/>	産業振興	
							<input type="checkbox"/>	定住促進	
						<input type="checkbox"/>	その他		
担当部課名	総務・福祉課				事業実施(予定)年度		平成29年度		
事業内容	年間を通じた観光産業の振興を図るため、冬季スポーツ合宿の受入環境整備を行う。								
先導性に係る取組	<input type="checkbox"/>	自立性		<input checked="" type="checkbox"/>	政策間連携		<input type="checkbox"/>	離島活性化を担う人材の確保・育成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	官民協働		<input type="checkbox"/>	事業推進主体の形成		<input type="checkbox"/>	その他	
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)								
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()								
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	17,900						
		(b) 予算現額	17,900						
		(c) 増減額(b-a)	0						
		(d) 繰越額	0						
		A. 計(b+d)	17,900						
	B. 執行済額		14,966						
	うち補助金充当額		11,973						
	次年度繰越額		0						
	執行率(%) (B/A)		83.6%						
	予算の状況の説明		当初の計画通り、適正事業を執行できた。 執行残2,934千円については、交流センター改修経費と備品購入費の圧縮などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況						
				29年度	30年度	31年度	32年度		
	合宿環境整備		目標	一式					
		実績	計画通り						
達成状況説明		セーリング競技日本代表合宿誘致のため、合宿所となる村立児童生徒交流センターの機能強化(床材張替、厨房設備入替など)を行った。 あわせて、合宿へのスポーツトレーナー派遣、先進地視察、コーチ用救助艇の購入などを行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)			基準値(28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値()	
	冬季の新規入域客数【人】(11月～2月 全日本選手他関係者)		目標	45	100			—	
			実績		92				
	成果目標(指標)			基準値(28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値()	
	冬季の新規入域客数【人】(11月～2月 学生、ジュニア合宿など関連交流団体)		目標	40	100			—	
			実績		64				
進捗状況説明		合宿環境の整備により、全日本選手他関係者の入域客数(11月～2月)は28年度に比べ大幅に増加(H28年度:45人、H29年度:92人)したが、他市町村へ合宿地として選んだこともあり、目標(100人)を達成できなかった。 また、学生、ジュニア合宿など関連交流団体の入域客数(11月～2月)は、28年度(40人)に比べ29年度(64人)増加しているが、交通費の問題などもあり、本土からの大学ヨット部、沖縄本島からの高校ヨット部合宿が伸び悩み、目標(100人)は達成できなかった。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○本村には若者が息抜きをする店もないため、練習に明け暮れる選手にとって、唯一の楽しみは食である。また過酷な練習に耐えるカラダ作りに食は重要であるため、味・栄養バランスともに一層のレベル向上が望まれる。</p> <p>○学生、ジュニア合宿など関連交流団体の入域客数については、本土からの航空機利用に加えて、練習艇の輸送費が高額にのぼること、また県内においても離島までの渡航費がネックになっている。</p>	<p>○一日三食すべてを村内の調理スタッフの裁量に任せているが、アスリート食の知識が乏しく、離島ゆへの材料調達の困難等の課題があり、満足度向上のためには専門家の支援が必要である。</p> <p>○大学や高校のヨット部が来訪しやすくなるよう、練習艇の輸送費及び本村までの渡航費などへの支援が必要である。</p>

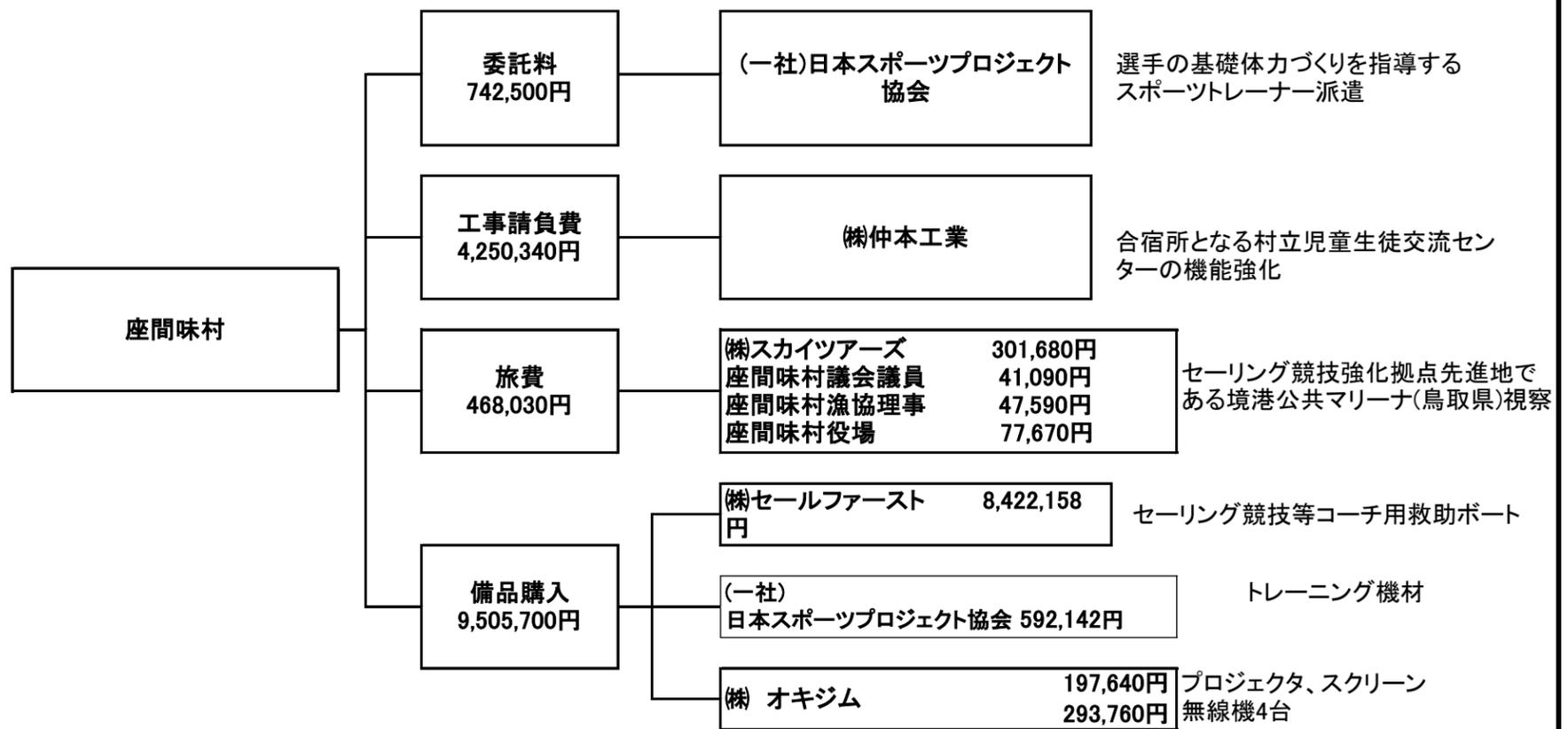
今後の取り組み方針

○県内のアスリートフードマイスターに、島で安定的に入手できる沖縄食材を活用したヨット選手向けレシピを作成してもらい調理スタッフを支援。また、多量のエネルギーを消費するヨット選手が練習中も携行できる補給食を考案し、合宿における食の満足度を高める。

○本村に備わっている環境(施設、備品、受け入れ態勢)を積極的にPRする一方で、輸送に経費のかかる練習艇の村所有を検討する(中古艇の譲渡を受けるなど)。また、県内外のユース(セーリング競技の青少年選手)育成に対する村内機運を高め、本村で行われる合宿への補助制度を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費
14,966	14,966	11,973	2,993	



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先(委託先、請負先、調達先)の選定については、原則として競争性を確保している。公募型プロポーザル方式による選定は村要綱に基づき実施するなど、支出先の選定は妥当と考える。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	委託については、第三者である専門家の意見も参考に適正価格で契約できた。工事費の積算については、三者見積りとなっており、妥当と考える。
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・用途については、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、検収時において確認を行い適正であった。

資金の流れ、費目、点検評価